

は不當解雇對抗援助演説會として、二十五日夜は労働者大會として開催した、二十三日の司會者は東京鐵工組合理事長三木次郎君。二十四日夜は同理事松岡駒吉君。二十五日は同理事にして毎日新聞記者たる平澤計七君である。

殊に二十五日の労働者大會は演説數番の後松岡鐵工組合理事が議長で、岡池製作所に對し日本労働者の名を以ての協議會を開き左の決議をした。

株式会社岡池製作所は工場を閉鎖し、尙ほ我々同志に解雇を宣言せり、斯くて吾人の労働權は蹂躪され生存權は脅さる。之れ明かに吾人労働階級に對する宣戰なりと認むるの外無し、吾人は本問題に關して至大なる階級的利害關係を有す。而して職工團の要求は實に吾國文化の隆替に關する所至大なるを信じ、滿腔の尊敬と贊同の意を表し、併せて目的の貫徹を期し、全力を傾倒して援助す。

右決議す、 労働者大會

無制限に賣品を貸賣する事を誓約した。會社側は職工の團結を切崩す一策として、各新聞に職工募集の廣告をしたので、事件の真相を知らざる職工が來つて就職しやうとすると職工團の警備員は其の職工に對し事件の真相を告げ階級的同情に訴へて、紳士的なる行動に依り就職猶豫を乞ふた、二十五日の午後には、通りが、りの一労働者が、職工團に同情のあまり、其就職希望の職工に對し喧嘩を賣つた位職工團に對する同情が大崎町に充ち満ちた。

各労働團體及び個人の同情は精神的に多大なる援助をしたが、更に物質的にも其誠意を表明した。各方面から集つた同情金の高は次の如くである。

▲金五圓友愛會芝浦支部 ▲金一圓小島芳助君 ▲金一圓山崎重吉君 ▲金一圓五十錢津岡太一郎君 ▲金二圓中田惣孫君 袴袋吉君 ▲金五圓日本電氣、諸君 ▲金五圓友愛會三田支部 ▲金三圓泉忠君 ▲金五圓友愛會芝浦支部 第二面 ▲金五圓友愛會北千支部 ▲金五圓加藤十君 ▲金五圓友愛會豐多摩支部 ▲金拾圓信友

尙其實行方法としては、(一)階級的同情に訴へ義金を募集する事(二)言論を以て盛に輿論を起す事(三)階級的同情に訴へ會社の職工募集に對抗する事(四)不幸にして此爭議の不調に終りし時は、本爭議の起るや階級を同じうするに係らず、反抗的態度を示し、尙ほ吾人を賣らんとするの行爲ありし人物に對し、吾人は黒表を作り至労働團體に通告を發し、社會的制裁を嚴にする事、(五)不幸にして本爭議の不調に終りし時は、株式會社岡池製作所の製品に對し、不使用同盟を組織し、飽く迄資本家の人間的反省を求むる事。以上五ヶ條を何れも満場一致を以て可決した。

溢るゝ同情と義金

此運動の結果、職工側に同情した労働者を中心としての社會は更に急激に、其同情の度を擴大した。ともすると休業中の職工を救済す小賣商店は、吉川米店を始めとして、此爭議の解決する迄

會 ▲金二十圓三田土ゴム會社員諸君 ▲金二十四圓野電會仕上旋券有志 ▲金二圓交通組合武井君 ▲金十四圓松岡駒吉夫人 ▲金一圓三好亭 ▲金五圓小石川労働會芳川會長 ▲金五圓五十錢松浦鐵工所職工諸君 ▲金一圓明電舎見君 ▲金一圓日本電氣野田芳太郎君 ▲金一圓芝浦藤村矢部兩君 ▲金三十圓日本鐵工會社有志諸君 ▲金貳圓同情夫人 ▲金五圓諸君 ▲金二圓山口商店工場徳業員 ▲金一圓小金井三郎君 ▲金一圓黒沼君夫人 ▲金一圓平野八君夫人 ▲金十圓友愛會城川聯合會 ▲金十六圓五十錢日本光學會社職工諸君 ▲金七圓明電會仕上及び試験部 ▲金貳十圓同三郎 ▲金貳圓大坂界君 ▲金五十錢某少年労働者君 ▲金五圓小森歌五郎君 ▲金三十一圓五十錢日本精工會社職工諸君 ▲金十圓友愛會足尾支部合計金三百七十六圓五十五錢外に梅千一櫻魚翁君關西方面には岡崎交渉委員が赴き各方面に運動中であつたが、爭議解決の電報が行つたので辭退したさうである。東京に於ても積極的に義金募集を開始せんとした時、爭議が解決したので、各労働團體で其計畫を中止したとの事である。

職工團籠城の會計

序に十七日間籠城した職工團の會計を記述して見やう。